

学級活動指導案

呉市立仁方小学校
指導者 教諭 須山 比呂志

- 1 日時・場所 平成24年9月19日～平成24年10月25日
- 2 学年・学級 第5学年1組（男子19名，女子14名 計33名）
- 3 題材名 「友達大好き」
内容 （2）ウ 望ましい人間関係

4 題材について

（1）児童の実態

本学級の児童は、男女の仲がよく、休憩時間には外で遊ぶ活発な児童が多い。しかし、男子の中には、冗談半分で友達を押しやり叩いたりする児童や、女子の中には、相手にとって配慮を欠く言い方をする児童がおり、トラブルになることが多い。このような児童は、相手の気持ちを考えなかったり、自分の気持ちをきちんと伝えることができなかったりすることが考えられ、一旦トラブルが起こると、どちらかが譲る（我慢する）か、お互いに言い分を言い合って終わることが多く、お互いが納得して解決することは少ない。また、時間の経過とともにトラブルがあったことを児童が意識しなくなったり、いつまでも解決されずにこう着状態になったりする場合も多く、当人同士でトラブルの原因が分からず、今後、どうすべきかについて、解決方法が分からないのではないかと推測される。

さらに、クラスの中で「静かにしましょう。」「席に着きましょう。」などの声かけは少なく、声かけがあってもそれに反応する児童も少ない。逆に注意をすると反発する児童もいる。

（2）題材設定の理由

小学校学習指導要領（平成20年）の第6章特別活動では、学級活動の目標を「学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級や学校におけるよりよい生活づくりに参画し、諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。」と示されている。

また、小学校学習指導要領解説特別活動編（平成20年）の学級活動の「学級活動の内容（ウ）」において、望ましい人間関係の形成の指導として、社会的スキルを身に付けるための活動を効果的に取り入れることが考えられると示されている。

そこで本活動では、児童の実態を踏まえ、自分の気持ちを適切に伝えるスキルや相手の気持ちを知るためのスキル、自分の感情をコントロールして落ち着いて行動するためのスキルなど、トラブル解決のためのスキルを習得することができるよう指導する。さらに、習得したスキルを学校での様々な教育活動を通して強化し、実際に日常生活の場で生かすことができるよう継続した指導を行う。

これらの活動を通して、児童一人一人が自分のよさを生かして生活できるように、また、互いを認め合い、協力して活動に取り組むことができるように、対人関係能力と自尊感情を育成することを目的とする。

5 題材の目標

- 自分の感情表現の中で不適切な表現方法の有無に気付き、感情の適切な表現方法を選択できる。
- 相手の気持ちを理解することの重要性に気付き、相手の気持ちを知るスキルを活用して相手の気持ちを理解することができる。
- 相手を尊重した意思表示の重要性に気付き、意思表示の表現方法を理解して自分の気持ちを適切に表現することができる。
- 怒りや強い衝動を感じたときに、すぐに行動することの危険性に気付き、「こころの信号機」モデルを活用して、落ち着いて行動することができる。
- トラブルが生じたときには、自分も相手も納得する解決方法を見つけるための話し合いを行い、「トラブル解決のポイント」を活用しながら、問題を解決することができる。

6 事前の活動

- 事前アンケートを実施し、自分自身の学校生活や気持ちなどを振り返り、望ましい人間関係を形成するための社会的スキルを身に付ける必要性を意識する。

7 指導計画（全5時間）

次時	活動の内容	目標	評価規準（評価方法）
第一次 第一時	○表情カードから、どんなときにその表情になるか、場面カードから、その場面ではどんな気持ちになるかを考える。 ○気持ちの伝え方のポイントを理解する。	自分の感情表現の中で不適切な表現方法の有無に気づき、感情の適切な表現方法を選択できる。	自分の感情を適切な表現方法で選択することができる。 （観察・ワークシート）
第二次	第一時 ○「相手の気持ちを知るヒント」を理解する。 ○グループである気持ちの演技を見て、その気持ちが何かを考える。	相手の気持ちを理解することの重要性に気づき、相手の気持ちを知るスキルを活用して相手の気持ちを理解することができる。	相手の表情やしぐさ等から相手の気持ちを理解することができる。 （観察・ワークシート）
	第二時 ○ついカッとなって人や物にあたった経験について話し合う。 ○落ち着いて行動するための「こころの信号機」モデルを理解する。	怒りや強い衝動を感じたときに、すぐ行動することの危険性に気づき、「こころの信号機」モデルを活用して、落ち着いて行動することができる。	落ち着いて行動するための方法を理解し、実行することができる。 （観察・ワークシート）
第三次	第一時 ○友達からの誘いや頼みごとを断れなくて困った経験、反対に頼みごとをして断られて不愉快な経験について話し合う。 ○相手を尊重した適切な意思表示の方法を理解する。	相手を尊重した意思表示の重要性に気づき、意思表示の表現方法を理解して自分の気持ちを適切に表現することができる。	相手を尊重しながら、自分の気持ちを適切に表現することができる。 （観察・ワークシート）
	第二時 ○友達と意見が違ふことでトラブルになってしまった経験について話し合う。 ○「トラブル解決のポイント」を理解する。	トラブルが生じたときには、自分も相手も納得する解決方法を見つけるための話し合いをし、「トラブル解決のポイント」を活用して、問題を解決することができる。	自分に合った問題解決の方法を選択し、実行することができる。 （観察・ワークシート）

8 学習内容（3／5時）

第二次 第二時 「こころの信号機」

(1) 日時 平成24年10月16日（火）第2校時

(2) 本時の目標

怒りや強い衝動を感じたときに、すぐ行動することの危険性に気づき、「こころの信号機」モデルを活用して、落ち着いて行動することができる。

(3) 準備物 掲示物 ワークシート

<http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~koizumi/newpage14-2-primary.html>

(4) 本時の展開

	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入	1 ついカッとなって人や物にあたった経験について話し合う。 2 本時のめあてを知る。 イライラをうまくコントロールしよう	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活での怒りや強い衝動について考えさせる。 本時の流れを示す。
展 開	3 紙芝居を見て、カッとなったときどうすればよいかを考える。 4 「こころの信号機」モデルを知る。 ①赤：生まれ！ ・落ち着くために深呼吸をする。 ②黄：よく考えよう ・怒りを感じた原因や問題を解決するための方法をさがす。 ・解決方法は1つではなく、たくさん考える。 ③青：やってみよう ・考えた中で、一番の方法を実行する。 5 「こころの信号機」モデルを使って、ロールプレイをする。 【場面の例】 ○並んでいる列に割り込まれた。 ○歩いていると急にぶつかってきた。 ○外で遊んでいるとボールが頭にぶつかった。	<ul style="list-style-type: none"> 「こころの信号機」ポスターを提示する。 解決方法については、児童の考えをできるだけ多く出させる。 「こころの信号機」の色について説明をし、赤について、深呼吸のモデリングをする。 黄については、児童の考えを促すようにする。
ま と め	6 本時で学習したことをまとめる。 ○これからの生活に「こころの信号機」モデルをどのように生かしていくかを考え、ワークシートに記入する。	<ul style="list-style-type: none"> トラブルが起こりそうになったときや嫌なことがあったときには「深呼吸」や「こころの信号機」モデルを思い出して活用するよう助言する。

9 事後の活動

- 一定期間、学習したスキルを学校生活の中で生かしているかどうか、個人目標に沿って自己評価及び相互評価する。(朝の会・帰りの会等)

引用文献

- 小泉令三 (2011) :『子どもの人間関係能力を育てる SEL-8S① 社会性と情動の学習 (SEL-8S) の導入と実践』ミネルヴァ書房
- 小泉令像・山田洋平 (2011) :『子どもの人間関係能力を育てる SEL-8S② 社会性と情動の学習 (SEL-8S) の進め方 (小学校編)』ミネルヴァ書房